

ご来館の記念にお寄せいただいたご感想

2020年（令和2年）10月～2022年（令和4年）10月までを抜粋



- 日曜美術館という番組をTVで拝見して三橋節子さんのことを知りました。コロナでなかなか来館する事ができず、今日やっと来る事ができました。やさしい色合いと絵に目頭が熱くなりました。ありがとうございました。
- 三橋節子さんという画家を初めて知りました。独特のタッチと色使い。そして愛情あふれる内容、せまりくる恐怖と戦いながら、真の境地に達せられたんだなと思います。大津の誇りですね。いつまでも存続することを願っています。(A)

- 『空と湖水』を読み、三橋節子さんを知りました。偶然、三橋という同じ姓を持ち、また私の母は節子という名で私が7才の時、35才で旅立ったという重ね重ねの奇縁をいただきました。野の草、野の花のように地味でありながらも地に根ざし、可憐な花を咲かす画風はお人柄と重なります。実際に絵を拝見し、赤と白がとても意味深く、また効果的です。幼い子供を遺して旅立つというのに天女の顔は至福に満たされ、苦しみから解放されていることにうれしさを思います。本当に来ることができて深く感謝申し上げます。(M.R)

- 『空と湖水』『湖の伝説』を読み、また画集に心うたれていました。主人と2人感激し、いつか行きたいと思っていたので、やっと来れたとホッとしています。私の子供達も昭和46年4月9日生まれなので自分と重ねあわせ、どんなに心残りの気持ちかと涙しました。ギリギリの精神力で画を上げた作品。それぞれの作品が持つ強さは見ている私達に生きる力を与えてくれると思います。とてもとても ありがとう。(K.Y)

- 散歩をしていて、たまたま三橋節子美術館の案内を目にして来ました。『よだかの星』に見覚えがあり、ぜひ見たいと目的に入ったのですが、晩年の作品により心ひかれました。愛情とさみしさと覚悟と、思いが伝わってきて、見ていてせつなくなりました。それと共に温かい気持ちにも満たされ、ずっとみていたい絵ばかりです。特に『母子像』は幸せな気持ちになります。こんな素敵な作品達、もっと多くの方々に見ていただけたらと思います。

- 画集では何度も見ていたのですが、実物を目の前にするとあっとうされる。思いが...気持ちが...? 祈りが...? 全身に入ってくるようでした。とっても力強いと感じました。短いけれどすばらしい人生だったのだろうと思いました。美術館も良い場所に建っていて、また来たいと思いました。

- 生きる事と、絵を描く事が密接に結びついて、節子さんの絵には力があります。幼い子どもたちをおいて旅立つその日に書かれた手紙を見て、「私にはこんな強さはない」と思いました。私はきっと「もっと生きたい」とじたばたすると思います。その強さを絵の中から感じました。静けさの中にある、凜とした強さ。本当に美しいと思います。

- これで三度目の来館です。深い湖、水、空を思わせる色が私をひきこみます。節子さんの思いが、絵をみる人の心を打たずにはいられない。「湖の伝説」を誰かにお貸しして今はなく、絶版とやら...ますます思いがつのります...「雷の落ちない村」も読み聞かせさせていただきました。「花折峠」がやっぱり一番心を打ちます。夫が病で長くないかもしれない...と思うといつのまにかここに引きよせられたのかもしれない。(S)

- 吸い込まれるような藍色と赤色と微妙に移り変わる色たちがいきいきとしてて素敵だな...と。
よだかの星とオキナグサの絵は特にひきこまれた。あと三井の晩鐘の光る目玉のほわあっとした感じもきれいだった。また見に来たい。(H.T)

- 僕が初めて三橋画伯のことを知ったのは昨年1月11日(土)にTV東京系で放送された「新美の巨人たち」でのこと。幼い我が子との別れを悟って描かれた数々の作品には画家としての意地そして母親の愛が詰まっていました。改めて自身の母親がこの世に存在していることを感謝すると同時にこれからも末永く大切にします。あいにくの雨天ではありますが今から余呉湖へ向かいます。(Y.K)

- 逝ってしまう者の気持 残された者の気持 胸に沁みわたります。
そして、私もこれから1日1日を慈しみ生きようと思えます。ありがとうございました。
私の夫も京都市立芸大の日本画科で学びいつか自分の絵を描こうとしていましたが、47歳の時に病で逝きました。結婚して7年。6才と3才の子供を残して。
彼の絵みたかったなあ！(N.Y)

- 節子さん ありがとうございます。
念願が叶い、絵を見せて頂きました。心がふるえる思いです。
滋賀に住んでおり、節子さんの絵は世界の宝物と思っています。
次回は娘と孫と参ります。重ねて感謝申し上げます。(K.M)

- 私が母になった時「花折峠」の絵を初めてみて、それ以来三橋節子さんの絵が大好きになりました。
子育てにいきづまった時、画集を見て心おだやかになりました。
もう78才です。この時々の感性をいつまでも持っていたいと思います。(H.Y)

- 先月4月に父を亡くし、母も一人暮らしはできずにホームでの生活が始まる。
以前、あたりまえだった実家の様子が全く変わり、親の愛情を今になり強く感じるこの頃です。
植松三十里さんの本を以前読み、是非、ここに来たかった。
赤とあおの深い色に感動します。ありがとうございました。(A.Y)

- 滋賀に生まれ育ち40年。ずっとなんとなく知っていた「三橋節子」さんでした。
私は結婚していますが子供がいません。
そんな私でも節子さんの母の愛に共感したり、感じとるものが多いのは、素朴な草花や見慣れた湖、山、鳥、どこか愛好のある子供の姿、母親のやさしい表情など親しさを覚える作品、作風だからなのかなと思いました。あとやはり時系列を追える展示のおかげ。
ふらっと立ち寄りましたが、思いがけない豊かな体験でした。ありがとうございました。

- 数年前に「雷の落ちない村」の絵本を手にして、いつかここに来たいと思っていました。
大津市に引越して、やっと来れました。「三井の晩鐘」に涙が出ました。
じっと絵を見ていると、見えなかったものが現れてきたり、不思議な雰囲気絵も、胸うたれます。ありがとうございました。

- 愛する者たちを残し、逝かなければならなかった三橋節子さんのお気持ちを思うと、心が苦しくなります。でも彼女の心の静けさ・・・あらゆるものにあふれる愛をそそいでいらっしやるその生き様に深く感動します。
大津に来る度に必ず寄らせて頂いております。(K.T)

- ずっと愛してやまない三橋節子さん。
父母を夫を子供達を、そして友人を思いやるやさしいまなざしが画の中に、たゆまなく流れていて胸を打ちます。近江に寄せる思いにも深い感銘を受けます。
三橋節子美術館のたたずまいそのものが発信され、多くの人々に、優しさ、思いやり、ゆるす心、つなぐ絆をしみじみと思います。心より感謝にかえて。
(T.K)

- 死への恐れではなく別れる哀しさ。自分の子供達のことと久しぶりに40歳で亡くなった母親のことを思い出しました。自分の時間を何に使うか。まだ考えられる幸せを忘れないように。いい時間を過ごしました。(K.H)

- 本当に野の花々が好きだった。そしてやさしかったのだと・・・絵を見るたびに感じます。どの絵にもそんな心が満ち満ちているようで・・・心が静まります。
また、総じて岩絵具の穏やかな配色と白の美しさに感嘆します。
もっともっと描いてほしい人だったとあらためて思いました。ありがとう！
また会いにきます。(R.O)

- 孫守りの時間から急に解放されて、二人で宝塚から来ました。昔から近江路が好きで、湖の周辺を行ったり来たり。余呉湖も三井寺も花折峠も何度も通いました。それにもまして感動は今日の日です。“密なるものの語る声は静か”
子供らへの最期の一箋しっかりもち帰ります。(K.M)

- グリーフケアを学ぶ中、三橋節子さんの絵に出逢いました。もともと絵には興味のない私でしたが、なぜか三橋さんの絵、そして生き様にとっても心ひかれるものがあり、やっと美術館を訪れることができました。三橋さんの子を思う気持ちは亡き母の思いと重なり涙がでます。(K.U)

- 何度か訪れていますが、折にふれてまた節子さんにお会いしたくなります。コロナ禍で少し間があいてしまいましたが、何度伺っても心が温まり胸に熱いものがこみあげてきます。
私も残り限られた時間を家族、友人、周りの方々に感謝しながら大切に過ごし生き切ろうと思えます。(C)

- 子供たちが小さかったころ、読み聞かせていた「雷の落ちない村」
大好きで、近くの小学校の朝の読み聞かせの時間に、生徒たちの前で読みました。
みんな“らいじゅう”がでてくるシーンが大好きで“かわいそう”とっていました。
思い出の本です。(T)

- 45年ほど前、息子を授かったとき書店で梅原猛さんの「湖の伝説」に出会い、それを機に三橋節子さんの画集を買い求め、その画に魅せられてきました。ずっとずっと来たかった美術館に、今日息子夫妻と夫と一緒に来ることができました。
子どもを愛する心、自然を愛する心。
これからも忘れずに生きていきたいと思います。ただただ感動。(T.K)
- 初めて来館しましたが感動しました。
母として妻として もっと生きたかったと思います。
そんな彼女の心が絵にあふれています。
絵心のない私ですが、絵が『生きる』ことを証明してくれています。
若くして命を失った節子さん。
今は天国で湖を見ているのでしょうか。(T.J)
- 今日は桜を見に来たのに、なぜかこの美術館にレールをひかれました。外の案内を見て、感動して、涙が止まりませんでした。
自分と重なるもの多くて、節子さんがお母さんに思えてきました。
母は8月生まれですが、びっくりしました。母も病気で31歳の時に亡くなり、読んでるうちにひきこまれてしまいました。
童話が大好きなので、読みたくなりました。
三橋さんの絵には、とても力強さがあり、元気が出てきます。
また、会いに来ます。節子さん、今日は本当に心をいやしてくれて、ありがとうございました。
余呉の母 会えてうれしや せつこさん (T.K)
- 若い頃に大叔母宅を訪問する途中の電車の中で、三橋節子さんの作品展のポスターに出会いました。
乗り越して展示会場に妹と行き、感激したことを今でもはっきり思い出せます。
梅原猛氏の「湖の伝説」を手にも、こういう意志の強い女性がいるのだと！！
それから何十年も経て、ようやく実際に美術館を訪れることが出来ました。
ありがとうございました。(T.T)
- 梅原猛さんから三橋節子さんへたどりつきました。
彼女の晩年を知ると、「時間がない」などと言いつきは通じないと、自分に言い聞かせました。
(M)
- 何回来ても・・・心静かに落ち着いた気持になります。
温かい色彩とテイネイに描かれた優しい野山の花々がとても美しいです。つい見過してしまう花々が・・・こうして絵になるとものすごく観察されていること・・・自分の眼でよく見てないことを知らされます。
物語と共に、花と心を感じ楽しくすごせて有難いです。
この場所が益々ステキにと想います。(R.O)

- 通りすがりにふと気に留まり、訪れてみたのですが、来られて良かったです。本当に良い出会いでした。三橋さんの絵は少し知っている程度でしたが、実物を見るという体験はかけがえのないものだとしつりに心に染みわたりました。
若くして亡くなられた彼女の絵たちが、このように愛されているということに、人の生と死とは一体何なのだろうと心が洗われた思いです。母と一緒に来たかった。(S)